

松子は自信を持って商社で働き、その簿記の腕、タイプの腕で、自分の居場所をみつける。そしてもう一つの人生につなげる。「梅ちゃん先生」のもう一つのサイドストーリー。

『昭和の音』

この時代の会社では、タイプの音やそろばんの音が仕事音となる。

タイプの音。「麦秋」という映画がある。小津安二郎の作品。その中で昭和の女優、原節子がタイプを打つシーンがある。その美しい指の動き。たんたんという擬音。そのリズム。この部屋だけでなく、まわりの部屋からも聞こえるタイプの音の風景。昭和の職場での一シーン。銀行では、そのタイプの音にばちばちというそろばんの音が紛れ込むと聞く。これは昭和の音。騒音と、もしかすると紙一重のこの音。その音たちは、松子・紀子たち職業婦人の象徴であるアイテム、道具から発せられる。その音の背後に彼女たちの姿がみえる。

『今の音』

さて今の職場では、パソコン。そのキー操作が仕事音となる。タイプの印字を打つ操作は「かなキー」に。そろばんの計算の操作は「数字キー」

に。それらはすべてキーボードという板に集められている。タイプの音もそろばんの音も静かなキーボードの音に替えられる。

それは暗算とも似ている。パソコンの中にそろばんの機能が取り込まれるように、暗算の中にも当然そろばんの機能が違った形で集約される。そろばんの形、音、動きそれらを併せて、一点に集める。しかも暗算は、そろばんと違った世界を持つ。さらに自由だ。

暗算は、用意始めの合図で水に飛び込むようだ。息を詰めて自分の呼吸を計って、数字に当たっていく。外から見ていて、聞こえてくるのはペンの音だけだ。暗算の音は個人個人の内側の音。やめの合図の後、一人一人その一点にたどり着いた時の音。一人一人深さが違う。さらに底は深い。暗算の深い静けさに外からみても感動する。

でもあえて、夜、そろばんを取り出してみる。そしてはじめてみる。その音に耳を傾ける。自分の音を拾う。昭和の音の余韻に耳を澄ます。その音の背景を考えてみる。確かめるため、もう一度、その澄んだ音を拾ってみる。

八月・九月行事予定

◎八月三日(日)

第二回 正副支部長会

第二回 執行部長会

第一回 常任委員会

第一回 理事会

◎八月八日(金)

そろばんの日

全日本珠算選手権大会 京都市

◎八月十二日(火)～十七日(日)

珠算会館休館日

◎八月二十日(水)

第五十回 「静岡県そろばんの日」

清水マリナート

◎八月三十一日(日)

(静) 上期通常総会

(全) 通常総会

第一回 全珠連競技部会

第一回 静珠協検定競技部会

第三百六十二回

暗算1～8級検定

静珠協珠算検定

◎九月二十四日(水)

全珠連創立記念日

◎九月二十八日(日)

第三百六十三回 全珠連珠算検定

暗算段位検定

第361回 全珠連【珠算】検定試験受験者数報告書

○囲みの数字は受験料免除者 段位～15級：平成26年5月25日施行

Table with columns for region (地区), grade (段位), and number of examinees (人数). Rows include various regions like 賀茂, 東豆, 三島, etc., and a total row (合計).